

総合的な学習における 振り返り活動と デジタルポートフォリオ

茨城県つくば市立吾妻中学校校長

こじまきお

小島幹男

【実践の内容】

本校の総合的な学習の時間で重視しているのが、自己の振り返りとそれによる学習の深化である。その目的に迫るために、デジタルポートフォリオを実施している。データをデジタル化しサーバに保存することで、保管するための場所もとらず整理も容易になる。またデジタルデータであれば、加工が容易になるだけでなく、データや作品の組み合わせや順番を変えることも自由にできる。また作品の複製を作り、多方面に公開することで、同級生や先輩、他の学校の生徒そして保護者までもが様々な意見をよせ、その後の探究の深化に貢献した。デジタルポートフォリオ作りによって、情報の収集、選択、加工、表現、伝達、評価など「情報活用の実践力」の向上を図ることができた。

【論文内容の紹介】

1 主題設定の理由

本校では、総合的な学習の時間としてExplore（探究）、Exchange（交流）、Express（表現）の3つの“E”の活動を中心とする「3E学習」を実践している。主体的で広範囲な活動が行われる総合的な学習は、最終的な作品を作ることも、そこに到着するまでの過程が大切であると考え、振り返りマップを活用することにした。また、交流活動によって集めた情報をより深い探究に発展させたいとの願いからデジタルポートフォリオを導入することにした。

2 活動の実際

(1) テーマの設定

1・2年生は、「身近な環境を見直そう」または「地球人になろう」をテーマとして3E学習に取り組んだ。生徒の関心から、「交流」「日本を見直そう」「体験」「エネルギー」「自然環境」「社会環境」等のコースに別れ、それぞれが課題を設定し2年間かけて追究をする。3年生はテーマを「未来のつくば市」と設定し、生活上の課題や地域の課題を様々な角度から追究した。どの学年も個人もしくは3人程度の小グループで課題解決にあたるため、全校で200以上の課題ができあがった。

(2) 振り返りマップの活用

データの管理とそのデータや活動に対する振り返りが不十分であると、やりっ放しで個々の関連が薄く、その場しのぎの活動を繋ぎ合わせただけの研究となってしまうことが多い。そこで、「振り返りマップ」を作成した。振り返りマップとは、自分にはどんなデータと作品があるのか、そして何を考えて活動したのかがわかるための地図である。この活動で、自分たちの行ってきた活動や考え（探究のプロセス）に価値を持たせることができた。

(3) ネットワークの活用によるデジタルポートフォリオ

多方面からの相互評価にも工夫をし、対面での検討会やネット上での検討会を行った。ネット上の検討会では、学年の枠を越えた交流が行われた。地域メーリングリストを使った検討会では、地域の方からの意見も頂くことができた。

3 実践の結果

デジタルポートフォリオを展開することによって、これまで以上に多面的な評価が可能になってきた。これによって、生徒の活発なフィールドワークは、豊かに表現され、更により深まりのある探究へと深化している。また、自分を振り返り、次の活動へ生かす力が身に付こうとしている。